

令和4年度 園内自己評価書

令和5年3月10日
真庭市立中和保育園
園長 二宗くり子 印

1. 中和保育園の教育保育目標

○豊かな心をもち、いきいきと活動する子どもの育成

【めざす子どもたち】

・元気な子ども

・考える子ども

・思いやれる子ども

2. 本年度の重点目標

①恵まれた自然の中で、心が動く体験を通して、生きる意欲と豊かな感性を育てる。

②家庭との連携を深め、生活習慣の定着を図りながら心身ともに健康に生活する基盤をつくる。

③資質向上につながる研修等を通して、園児一人一人を大切にしたより充実した保育実践を行う。

④地域の中で、様々な人と関わることで、ともに親しみをもつて共存性を育む。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育教育課程・指導計画	保育教育目標について、職員で見直しをし、園の実態に合ったまた、小学校に繋がるものを作成した。今後実践を積み重ねていきたい。	3.5
行事	子どもの発達段階や状態に合わせた行事になるよう努めた。来年度は、さらに子どもの発達や状態に沿った内容となるよう計画実施したい。	3.5
組織・運営	少人数の職員で意思の疎通を図りながら協同し保育を行った。打ち合わせの時間が取りにくかったので今後の課題とする。	3.5
学級経営	一人一人の良さを認めながら丁寧な保育が実践できた。今後は適切な環境構成に力を入れたい。	4
特別支援教育	日々のきめ細やかな対応を行った。個々の発達段階に応じた保育内容を協議し実践を継続していきたい。	4
安全管理・保健指導	健康安全・感染対策等、必要な処置や啓発を行うことができた。また、事故防止の配慮も行つた。	3.5
研修（資質向上）	様々な研修に参加し、園内研修を行うことで共通理解し、保育に生かすことができた。	4
情報提供・保護者・地域との連携	ホワイトボードの活用が不十分だったが、活動の様子が分かる写真の展示やホームページ活用を推進していく。	3.5
小学校との接続・連携	小学校が、常にウエルカムな姿勢で臨んでくれるので、互いに「つながる大切さ」が実感できた一年だった。	4
子育て支援	保護者が安心して話ができる関係が築けている。各機関との連携も取ることができた。	4
食育の推進（給食）	個々の様子を見たり声掛けをしたり、担任とも相談しながら、調理・配膳を行つた。	4
食事の提供（調理）	安心・安全な給食提供を中心かけ、アレルギー対応等に関しては、保護者と密に連絡を取りながら、配慮・工夫した。	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価

本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

①自然が多くある環境なので、季節を体いつぱいに感じて遊ぶことができた。「みどり坂」を通れば小学校があるという恵まれた立地なので、自然の中で味わいのある交流もでき、就学という先を見通した活動ができた。

②保護者の要望に対しては、思いに寄り添いながら保育活動が実施できた。生活習慣の確立に関しては、保護者と連絡を取り合い、年齢に応じた提案を提示していきたい。

③オンラインでの研修が多かったので、空き時間を利用しながら受けることができ、園内研修を通して共有し、保育に活かせるようにした。どの研修も内容が濃く、新たに学べることの多い一年だった。

④地域に関わる様々なサポーターの方々と協議を重ね、園との信頼関係が構築できた。今後もともに共存していく姿勢を大切にしたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

- ・来年度は、園内外から要望のある「自然保育」について、中和の自然を生かした取り組みを計画、実施していく。また、地域の方々や小学校とも連携しながら、「つながる大切さ」を意識した様々な活動を実施していきたい。
- ・園での活動の様子の発信を望まれることから、より分かりやすい掲示やホームページ上の投稿回数を増やすことで、保護者との思いの共有・安心感に繋げる。
- ・アンケートに関しては、よい評価を得ているので、引き続き、職員間で子ども様子や姿等共有しながら、創意工夫した保育活動を展開していきたい。
- ・小学校との接続・交流についても、互いにとつて実のある活動が目指せているので、今後もさらに良い関係性が築けるように努めたい。

(保護者アンケートの結果や園内職員で改善策を話し合ったことなど織り込んで記入する)

園評価基準

評価	基準
4	80%以上の達成度
3	60%以上80%未満の達成度
2	40%以上60%未満の達成度
1	40%未満の達成度